

令和5年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる  
「共同研究班」 研究報告書

令和6年4月30日現在

研究課題名	③国家の生存戦略に関する共同研究		
担当者	氏名	所属機関・職	
	宇山 智彦	北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター・教授	
班員1	氏名	所属機関・職	専門とする研究分野
	吉村 貴之	早稲田大学ロシア東欧 研究所・招聘研究員	アルメニア近現代史
	研究テーマ		
	アルメニアの生存戦略と政権交代の関係（ジョージアとの比較）		
班員2	氏名	所属機関・職	専門とする研究分野
	小森 宏美	早稲田大学教育・総 合科学学術院・教授	エストニア近現代史
	研究テーマ		
	エストニアの生存戦略と民衆・知識人・政治エリート		

## 研究成果の概要

ロシアによるウクライナ侵略が続く中で、小国の生存戦略は益々切実な問題になっている。

吉村は、2020年の第二次ナゴルノ・カラバフ紛争で敗北して以降のアルメニア政治を分析した。パシニアン首相率いる与党「市民協約」は、2021年6月の繰り上げ議会選挙では辛うじて5割少々、2023年9月のエレヴァン市議会選挙では第一党を維持したものの3割少々の得票にとどまり、しかも投票率はいずれも低く、市民の消極的現状容認が続いている。そもそも2018年に成立したパシニアン政権は、前政権末期に「個人商店」的な政党を結成して大衆運動で権力奪取して市民の熱狂的支持をアおり、隣国との戦争を機に支持率が低下しても「代わりがない」と主張して延命を図るという点で、隣国ジョージアで2004年に成立したサアカシュヴィリ政権と似た生存戦略を採っている。しかしジョージアでは2012年にイヴァニシュヴィリの野党連合が議会選挙で勝利して政権交代が起きたのに対し、アルメニアでは新しい野党勢力が十分育っていない。また、現在のジョージアが親欧米を基調としつつロシアとの関係を維持して生存を図るのに対し、アルメニアの場合は第二次ナゴルノ・カラバフ紛争以降、安全保障・外交面でロシア離れが表面化した。経済関係で方針転換が起きるかは不透明である。

小森は、エストニア現代史の中でペレストロイカ期とウクライナ戦争期という2つの時期に注目した。1980年代後半に、ソ連による占領以前の独立国家の象徴の一つである「共和国旗」をめ

ぐって改革の積極的推進派と慎重派の間で繰り広げられた議論を精査し、共和国側によって早い段階から目指された「主権」の実質化は独立への動きと必ずしも同一ではないものの、当人たちの意図にかかわらず、独立以外の選択肢では達成できない目標について語られていたこと、他方で、ソ連邦自体の改革により自分たちの望む「主権」の実現が可能であるとも考えられていたことを明らかにした。2022年2月以降については、歴史表象の変化という観点から、ロシア語系住民が95%以上を占める東部国境都市ナルヴァで現地調査を行い、同市博物館でしか入手できない都市史・地域史に関する研究報告書などを入手し、エストニア国家内の歴史認識の多様性や衝突を、生存戦略という観点も踏まえて検討する作業を進めている。

宇山は、ウクライナ戦争について中立の立場を取る中央アジア諸国が、ロシアとの関係を維持しつつ他の諸国との関係を強化する戦略を採っていること、ただしロシアの脅威についての認識は隣国カザフスタンと他の国々では異なることを、脱植民地化論とも関連づけながら分析した。

以上の諸事例から、生存戦略における外交・戦争と内政の密接な関係や、さまざまな交渉の過程を、その時点での当事者の認識や取り得た選択肢を踏まえてきめ細かに分析する必要性が浮かび上がってくる。2024年3月4日に開いた本班の報告会では、具体的な諸問題と並んで、諸国間・諸勢力間の権力関係・対抗関係が錯綜する中での「和解」の困難さについても議論した。

**主な発表論文等（雑誌論文、学会発表、図書 等）※謝辞の有無について明記願います。**

<論文>

小森宏美「冷戦後のヨーロッパで進む記憶の一元化：エストニア社会から消される記憶」森原隆編『ヨーロッパの「統合」の再検討』成文堂、2024年、313-328頁。

宇山智彦「多方面外交を維持・拡大する中央アジア：分断ではなく競存を求める中小国」『国際問題』第714号、2023年、48-58頁。

<学会発表>

吉村貴之「ナゴルノ・カラバフ紛争：その発生から非承認国家の消滅まで」早稲田大学ロシア東欧研究所定例研究会、2024年1月20日。

小森宏美「ペレストロイカ期エストニアにおける民族／国家象徴をめぐる議論」ロシア・東欧学会2023年度研究大会（於京都大学）、2023年11月5日。

宇山智彦「「ポストソヴィエト」と「グローバルサウス」の狭間の中央アジア：地理的概念の政治的機能」日本国際政治学会2023年度研究大会（於福岡国際会議場）、2023年11月12日。

（いずれも謝辞無し）

**当該研究活動をもとに採択された研究プロジェクト（応募中の研究プロジェクトを含む）**

以下の研究プロジェクトが採択された。

・科学研究費基盤研究(C) 24K03463 「「アルメニア近代国民音楽の創始者」コミタスを彫琢した疑似国民国家と移住者」（研究代表者：吉村貴之 2024-2027年度）

・科学研究費基盤研究(C) 24K04312 「「越境的国民」形成の実証的研究—旧ソ連諸国を事例として」（研究代表者：小森宏美 2024-2026年度）

※枠を調整することは構いませんが、ページは追加しないでください。